

青年部は大胆な実践と丁寧な総括をして 次につなげることが必要！

☆プチ学習コーナー☆

みんなで学んでいきましょう！

○国民春闘

労働条件、物価、減税、社会保障、安保、沖縄問題等を含めた全国的視点での生活闘争、制度闘争が加わることにより1974年から国民春闘といわれた。現在、連合では、「春季総合生活改善闘争」とも呼んでいる。

○団結ガンバロー(だんかば)

大会はもちろんのこと、その他種々の集会の意思統一の表現として最後に必ず行う。「団結ヨーイ」で左手を腰にかけ、右手のこぶしを耳のあたりに置き、「ガンバロー！」の合図と共に右手のこぶしを天に向かって突き上げるのが一番ポピュラー。

「部員一人ひとりの不満や不安を『ゆずれない要求』として確立することを目標に、今春闘で、今一度、労働組合の意義を確認し、組合運動は『自分たち自身のためにやっている』という強い気持ちでたたかう」など全体で17本の発言が出され方針が補強されました。

12月21～22日、札幌市で「2014国民春闘勝利！自治労北海道本部青年部春闘討論集会」が開催され、110単組・総支部287人が結集しました。
一日目は、はじめに牧野前道本部青年部長から「2014春闘にむけて」と題し、労働力における賃金等の話を中心に講演を受けてきました。
『私たちは労働者であり、資本家に「搾取」されていることを認識しなければならぬ。非正規職員割合の増加、企業間格差、賃金カーブのフラット化や、会社の資本は増加し続けているのに賃金が増加していないことから「搾取」されていることが分かる。また、牧野さんは、「賃金とは労働力の再生産費」であるとしたうえで、「青年部は『大胆な実践』と『丁寧な総括』をして、次につなげることが大切だ」と強調しました。
その後の分散会は職種別で行われ、

窓口職場の分散会では「前の職場では時間外が多かったが、今は定時に帰れる。帰れるのはいいことだが手取りが減って生活が大変」「周りを気にして有休がとりにくい。特に月曜日！」などの不安や不満が出されました。しかし「職場で話をして有休はとりやすい」という声もあり、分散会の中では、有休のとりやすい職場と取りにくい職場の違いはなんだろう？との話題になりました。
一番大きな違いは職場でしっかりと話していることであり、このことは、有休取得に限らず、職場改善を図っていくためにも重要という話になり、分散会を終了しました。
2日目は、原水禁世界大会広島大会報告、4本の分散会報告を行った。その後の全体討論では、「自分たちの賃金について考えることを目的に、賃金リーフを活用した学習会を開いた」



△講演を行う牧野さん

集会の最後には、瀧口青年部長が「多くの地本や単組・総支部の発言の中で、具体的な行動を実践してきたと報告があった。しかし、こうした運動を実践してきた仲間たちは、決して特別な人たちではない。一緒に頑張る仲間がいる。支えてくれる、支えたい仲間がいるということ。すぐに仲間ではないが、一人ひとり、地道につくっていくしかない。まずは職場に戻って仲間を拡げていこう。よりよい住民サービスを提供するための職場環をつくっていくためにも、一歩ずつ運動を前進させよう！」と集約し、団結ガンバローで集会を終えました。

人事院「給与制度の総合的見直し」に反対する取り組みについて

名寄市職労では人事院に対して反対の署名を行っています

2月14日までに一人10筆以上の署名をお願いします

LEASE

